

News Letter

■2013年2月25日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

授業科目でPBLを導入する教員へ教材開発費・授業開発費を支援する「PBL教育支援プログラム」に、本年度は11件が採択されました。本号では、シリーズ第6回として、人文学部江成 幸先生の「PBLセミナーE(多文化共生について考える)」におけるPBL教育の実践報告を掲載します。

2012年度開講「PBL教育支援プログラム」成果報告(6)

「PBLセミナーE(多文化共生について考える)」

② 授業形態の定着

地域における多文化共生をテーマとして、平成20年度より共通教育のPBLセミナーを開講してきた。5年目となる平成24年度は、これまでの積み重ねのもとに、以下の方針に沿って実施した。

(1) PBLを導入する意図

- ① 多文化共生を身近な地域の課題として実感できるように、提案に結びつく問題探求型のPBLを行う。
- ② 大学(higher learning)の入門科目として、身のまわりの事柄について、一つの答えを求めるのではなく、物事の複雑な背景を理解しながら、対応策を探る。

(2) PBLの実施方法

- ① 授業で新聞・雑誌記事やホームページを紹介し、前提となる知識を学ぶ。
- ② 教員が複数の事例を提示し、その中から学生が研究対象を選択できるようにする。
- ③ グループワークを通じて、調査、分析、プレゼンテーション準備を行う。議論・連絡・記録にはMoodleを活用する。
- ④ 自主的学習を重視しつつ、教員が毎回の授業の目標を設定し、クラス全体の進行を統一する。学習のペースを維持することで成果が得られ、学生の自信と達成感につながる。
- ⑤ 評価は、授業・自習タイムともに出席点をつけ、資料収集と調査への参加、およびパワーポイントによるグループ研究の提出を課す。

(3) 4単位に見合う自己学習をさせる方策

平成21年度～24年度は、自習タイム(水曜9-10限)の指導のために大学院生のTAを雇用し、履修学生には授業と同等の出席点を与えた。教員と

TAは、授業時間外に毎週打ち合わせを行い、週2コマの授業計画を滞りなく進行できるよう、指導内容の確認を行った。

② 平成24年度の授業内容

例年、木曜1-2限に開講しており、履修者は毎回10名から20名であったが、本年度は3名と大変少なかった。減少の理由はわからないが、今年度は共通教育の同じ時間帯に人文科学系の講義が複数あり、学生が分散したのかもしれない。

少人数でも、公開発表会を目標とするグループ学習という点は、前年度までと全く同じであり、順調に進めることができた。各回の授業内容は以下の通りである。自習タイムでは、授業中に指示した課題に取り組んだ。

- 第1回 授業の説明・学生の自己紹介
- 第2回 多文化共生を支える地域活動の事例紹介
- 第3回 調査対象の選定についての話し合い
- 第4回 グループ研究の方法に関する説明
- 第5回 研究テーマの選定、役割分担・ルール作り
- 第6-7回 研究計画、図書館での資料収集
- 第8-10回 多文化に関わる資料分析、発表内容の準備
- 第11回 校外見学の準備
- 第12回 6月21日(木)松阪市教育委員会「いっぽ教室」見学
- 第13回 発表内容の準備
- 第14回 クラスでの発表
- 第15回 公開発表会の配付資料作成・印刷、学生アンケート
- 期末課題 7月25日(水)公開発表会での報告、研究成果の提出

学生の研究成果

学生たちは、来日外国人の出身国に関する学習や、外国人児童生徒を対象とした「いっぼ教室」での日本語指導ボランティア体験をもとに、『日本における外国人教育』というテーマで研究をまとめた。

いっぼ教室の授業風景

・学年は様々で低学年～中学生。

・先生が主に授業を進め、生徒の周りをボランティアスタッフがサポート。

・生徒同士の交流もあり、母国語で会話しながら楽しく取り組んでいた。

・生徒の性格、個性もバラバラ。



学習言語の学習

○ 単語の意味を覚えるだけではない

勉強していく間に・・・

○ どんな場面で使うか

○ 話し言葉とのニュアンスの違いはなにか

将来的にも・・・

○ 社会に出ていくためにも身につける必要がある

フィリピンの学校での習慣

フィリピンでは学校に行く時もピアス・ブレスレットをしていても問題ない。



フィリピンではピアスはお守りのように考えられている。

なぜピアスやブレスレットをしてはいけないのかわからない

図 学生が作成したスライドの一部

内容は3名の学生が、①「いっぼ教室」での学習の様子、②外国人が日本語学習する際の難しさ、③日本と出身国の教育制度や生活習慣の違いについて、それぞれ分担した。公開発表会に向けて、協力してパワーポイントを作成し、一つのプレゼンテーションとして報告した(左図:学生が作成したスライドの一部)。

PBLセミナーは、主に1年生が履修するため、校外に出かける時間を取るの容易ではない。しかし見学を通じて、多文化共生を身近な社会現象と受けとめ、学生の問題意識が飛躍的に高まることは明らかである。今回はPBLセミナーへの予算措置を活用し、学生に見学の交通費を補助することができた。開講準備のための支援プログラムとともに、大学によるPBL授業の推進に感謝したい。

私自身のPBLセミナー担当は、今年度でいったん区切りとなる。振り返ると、PBL方式による活気ある授業は、学生への教育効果はもちろん、教員自身および大学院生TAにとって大いに刺激となり、励みになった。

(江成 幸)

お知らせ

3月に3件のイベント(FD,TAD)を開催します。
ふるってお申込み・ご参加ください!

① 『自己調整学習(Self-Regulated Learning:SRL)』の観点から大学生の学習を考える

日時:平成25年3月4日(月)13:30~16:30

会場:環境・情報科学館 3階 PBL演習室6

対象:大学教育や学生の学びについて、より高度な理解を目指す方。「学習」や「学び」についての心理学的理論に興味がある方。

締切:2月28日(木) ※当日参加も受け付けます。

② TA向け相互研修会『TAの役割と心構え』

日時:平成25年3月6日(水)13:00~15:00

会場:共通教育校舎2号館 1階 181教室

対象:2012年度TA及び、2013年度TA採用予定者

締切:3月1日(金)

③ はじめてみませんか!『Moodle & e-Portfolio 講習会!』

日時:平成25年3月18日(月)13:00~15:00

会場:共通教育校舎1号館 4階 情報教育室

対象:Moodleを使いはじめようと思っている人、Moodleをさらに活用したい人、e-Portfolioそのものがよくわからない人、e-Portfolioの使い方がわからない人